

① 次の①～⑧の——線の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

- ① 備えあれば憂い無し。
- ② 彼は承知済みだろうか。
- ③ 遠方より友が来る。
- ④ 世間話をする。
- ⑤ 活気のあるギョコウ。
- ⑥ 決まりをカイセイする。
- ⑦ 事前にケイコクする。
- ⑧ 規模をシユクショウする。

② 次の1・2のそれぞれの問いに答えなさい。

- 1 あとの語群の中から漢字を選んで、次の意味に当てはまる二字の熟語を作りなさい。
- ① 体のかっこうや構え方
- ② けがれがなく清らかなこと
- ③ 何かを行うのにちょうどいい時
- ④ 計画通りに目的を達成すること

【語群】

白・機・姿・成・会・純・功・勢

2 次の①～④の文の主語と述語をそれぞれ抜き出して答えなさい。

- ① 私は、彼が昨日の放課後に学校でたかし君と鉄棒の練習をしたという話を聞いた。
- ② 「これから雨が降るから、もうそろそろ家に帰りなさい」と母がたかし君に言った。
- ③ たかし君はみんなに対してとても優しいので、クラスの中でも人気者だ。
- ④ 彼は、たかし君が昨日ひどいことを言ったのに怒らないくらい強い心を持っている。

③ 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

(特に指示がない場合、句読点や記号は一字に数えます)

① 「敬一くん、なにか話があるんじゃないの？」

敬一は、助かったという表情で「うん」とこたえた。夏葉のいつていた②『あの話』というやつだ。ろう。ぼくたちは、あぐらをかいてむかいあつた。

「じつはね、ふたりに相談したいことがあるんだ……」

「なんだよ」

ぼくがそう聞くと、敬一はゆっくりと話した。

「じつはね、明日……、月曜日。一時間目に表彰式があるんだ。この前やった研究発表の表彰式さ。表彰式のあとに、記念品の除幕式もある」

「記念品？」

「水槽だよ。百・トセンチの大型水槽。ウシモツゴを研究してるナントカ先生つてのが、ウシモツゴも二ペア寄贈してくれるんだつてさ」

「ウシモツゴって、敬一が研究してた魚だろ。たしか、市の天然記念物……」

「うん、絶滅危惧種さ」

「よかったね」

大介がそういうと、敬一は下をむき、首を左右に振った。

「……よくないよ。全然よくない。だって、ここには、魚がいるんだから……。それなのに、ぼくは家下川には魚が一匹もないって発表したんだぜ。まったく、情けないよ……」

「だからって、どうするつもりなのさ」

「賞はことわる。③ まちがった発表だってわかっているのに、黙って賞なんかももらえないだろ」

「……」

ぼくは、驚いた。賞をとるのが生きがいのような敬一が、それをことわろうとしている。

「敬一、無理するなよ。それに、今さらことわるなんて、いろいろとややこしいぜ」

「だって、このまま賞をもらっちゃったら、おまえたち、ぼくのことを④軽べつするだろ」

「いいじゃん、おれたちのことなんか気にするな」

「だめだよ」

「ぼくたちは平気だよ」

「だめだ！」

敬一は、強い口調でそういった。

「……」

「昨日、学校の帰りに敬一をとりおさえたとき、敬一は家下川に魚がいることを認めると、賞に傷がつくということばかりを気にしていた。(⑤) 、今、目のまえにいる敬一は、賞をもらうことよりも、ぼくたちに軽べつされることを気にしていた。

「本気なのか？」

「うん。ぼくは、まだ、ここで研究を……、ううん、まだ、ここでもっと遊びたいから……」

(ここでもっと遊びたい……)

その言葉を聞いたとき、ぼくは、今までずっと嫌いだつた敬一のことを、初めてゆるめるような気がした。ぼくは、いった。

「大ちゃん、どう思う？」

「ぼくは、敬一くんの好きにすればいいと思うけど……」

それは、大介らしいこたえだった。でも、ぼくは、納得できなかった。

「なにいつてんだよ、大ちゃん。いいかい、敬一も。賞は、絶対にかえさなくていいよ。だってそうだと、一所懸命やった研究なんだから、もらえばいいじゃん。あとでわかったことなんか関係ないよ。敬一、もらえよ、絶対にもらえ。これからもここで研究をつづけるんだろ、だったらいいじゃん。全然、はずかしいことじゃないよ」

ぼくは、なぜだか興奮していた。ふたりは、驚いた顔をしていた。

「でも……」

「でもなんだよ、敬一」

「だって、黙って賞をもらったら、ぼくはいえなくなっちゃう」

「いえなくなる？」

「ここに魚がいることをだよ。みんなに、知ってほしいんだ。ここにも魚はいるってことを知ってほしいんだよ」

「……」

⑥それは、ぼくたちが思っていることでもあった。しかし、それを知ってもらうために、敬一の賞を台なしにすることはどうかと思った。

「いいことがある。ねえ、敬一くん。ウシモツゴの水槽って、大きいんでしょ」

「うん」

「だったら、そこにさ、どばーって、この魚、全部入れちゃおう。記念品の水槽を家下川の魚で水族館にしちゃうんだ。そうすれば、川には、こんないろいろな魚がいるんだぞってわかってもらえるよ」

「ええっ！」

「ぼくもね、前からずっと思ってたんだ。ここにすむ魚をみんなに見てもらいたいって。でもさ、どうやっていいのかわからなかったんだよ。ねえ、健ちゃん……」

「なに？」

「やろう。だれにもわからないように、水槽に魚を入れちゃおう。そうすれば、敬一くんも賞をもらえるし、魚も見てもらえる。みんな、きつと驚くよ」

とんでもない話だと思った。無茶苦茶な話だと思った。でも、大介の顔を見ると、不思議とうまくいくように思えてくる。おもしろそうだなと思えてくる。ぼくは、いった。

「へへっ、大ちゃん。これは、⑦歴史に残るいたずらだぜ」

(阿部夏丸『うそつき大ちゃん』より)

問一——部①「敬一くん」とありますが、「ぼく」は「敬一くん」のことをどのような人物だと思っていますか。「く人物」につながるように、本文中から十四字で抜き出して答えなさい。

問二——部②「あの話」とはどういう話ですか。次の文の空欄にあてはまる言葉を本文中からそれぞれ抜き出して答えなさい。

(二字)が(四字)の(二字)をことわろうとしている話。

問三——部③「まちがった発表」とありますが、どんな発表ですか。「くという発表」につながるように、本文中から十三字で抜き出して答えなさい。

問四——部④「軽べつ」とありますが、「軽べつ」されると困るのはなぜですか。本文中から十字で抜き出して答えなさい。

問五 () ⑤ () にあてはまる言葉を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア なぜなら イ だから ウ しかし エ そして

問六——部⑥「それ」を三十文字以内で説明しなさい。

問七——部⑦「歴史に残るいたずら」とありますが、具体的には何をするのですか。本文中の言葉を使って答えなさい。

④ 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

(特に指示がない場合、句読点や記号は一字に数えます)

秋が深まるころ、僕は太平洋に浮かぶ小国ツバルに行くことにした。なぜここでツバルに行ったかというと、他人に関心を持たず、①自分本位で生きていた高校時代の僕が変わるきっかけとなった原点こそが、ツバルとの出会いだったからだ。

バスケットボールに明け暮れていた高校2年の夏、たった2日しかない貴重な休みの日、僕はここぞとばかりにクーラーの効いた自分の部屋でインターネットを楽しんでいた。そんなとき、ヤフーのトップページでふと気になるニュースを見つけた。それはツバルという小さな国の特集記事だった。外国といえばアメリカとヨーロッパとオーストラリアくらいしか知らなかった僕は、なんとなく気になってクリックしてみた。

「ツバルは太平洋に浮かぶ小さな国で、天国に最も近い場所」と言われているほど綺麗な島。しかし、地球温暖化による海面上昇によってもうすぐ沈んでしまします」

「国が……沈む……？」と唖然とした。ツバルなんて国のことはそれまで見たことも聞いたこともなかったが、一国が海に沈むという漫画みたいな壮大な話に、理由はわからないが、強烈な衝撃を受けた。

根っからの漫画好き人間であり常々ヒーローに憧れていた僕は、「なんとかしなくては!!」と思いついた。いまツバルに行くしかないパソコンを開いて検索してみると、NGO主催のエコツアーで、ズバリ40万円という金額が目飛び込んできた。当時1カ月の小遣いが5000円だった僕にとつては、お年玉を含めても貯めるのに3年以上かかる金額だった。それに冷静に考えると、この夏休みは部活がほぼ毎日あり、休みはたったの2日しかないのだ。そしてそのうちの1日が今日費やされているという実情。「まあしょうがないわな」とため息を吐いて、ツバル行きを諦めた。

しかし、ツバルが僕の小さな脳ミソに与えた衝撃は計り知れなかった。さまざまな思いが頭を巡る。自分が生きているせいぜい半径5キロほどの領域の外にも、世界は大きく広がっているんだと気づいて驚愕した。そして、世界が()②()のものでもない意識するようになった。色んな人が、色んな場所で、それぞれの意志を持って人生を暮らしている。つまり僕とは無関係の「他者」が集まっ

て、世界ができていると認識した。

それまでの僕は、自己中心的に生きていた。他者に対する思いやりの気持ちに欠け、小学生・中学生時代には、ひどいじめもした。高校に進学してからいじめはやめたけれど、それは決して罪悪感や反省からではなく、単に他者と関わるのが面倒で自分の世界を守りたかったからだ。

ツバルのニュースを見たとき、そんな僕の何かが変わった。「世界は広い」という純朴な驚きじゃなくて、その世界にいる「他者」の存在を初めて認識した。そのことについて考えるうちに、いじめをしていた過去への後悔の念が強烈にわきあがってきた。「他者」の視点に立つことで、いじめられた側の悔しさや怒りが実感となり、その人の人生を踏みにじってしまったと痛感したからだ。本当ならいじめてしまった人のもとへ謝罪に行くのが筋だけれど、意地っ張りでそんな勇気もなかった。だから、せめてこれからはいじめられる側に立とう、いじめられる人を助けよう、そう決めた。そして、自分を変えてくれたツバルへいつか行こうと胸に刻んだのだ。

日本からまずはフィジーに行き、そこからツバルに向かう。小さな飛行機から見える小さく細長い島、憧れ続けた国がそこにあった。太陽がまぶしくとても暑いけれど、カラリと爽やかな気候でまさに南の島という風情だ。滑走路脇ではたくさんの子どもたちが遊んでいて、のんびり休んでいる村人たちも見える。

【中略】

こぢんまりした気象庁には職員が2名いるだけ。ひとりクラシックギターを肩にかけているという※フランクさ。温暖化の影響などを聞いていると、おやつのココナッツ料理を持ってきた。しばし休憩、なんとも和やかだ。

隣の刑務所は「刑務所」というか、ただの掘った小屋で、柵もフェンスのみ。そしてそのフェンスの出入口も開きっぱなし。※タファークはスタスタとフェンス内へと歩いていき、「おい誰かいるか？」と呼びかける。

すると中から男が3人、普段着で出てきた。

「タファーク、③これって大丈夫なの？」

「まったく問題ないよ。みんな俺の友だちさあ」

タファークは真つ黒なバターのような固形物を取り出し、3人の男と一緒に手巻きタバコをつくりはじめた。倒れているココナッツの木の上にみんなで座り、のんびりタバコをふかす。なんとも穏やかな時間がゆっくりと流れていく。

「ヨスケ、見てわかるようにここはいつでもオープンだ……。この囚人たちはいつでも自宅に帰ることができんだぜ」

ただでさえダンディーなタファークは、タバコを吸っているときはハードボイルドな男に様変わりし、映画のワンシーンを見ているかのような。目を細め、遠くを眺めながら、ゆっくりとした口調で彼は続ける。

「俺たち普通の村民とこいつらは友だちだし、同じツバルに暮らす仲間さ。だから誰でも彼らを受け入れるし、彼らもそのことを理解しているから変なことは起こさないのさ」

「でも、何かやっちゃったから刑務所にいるんでしょ？」

「みーんな酒に酔って派手にケンカしちゃったとか、そんな理由だ。大した犯罪者はここにはいないわけさ。なあみんな」

それを聞いて3人の男たちは照れ笑いをしながら、タファークと僕と、それぞれ握手をした。僕らが刑務所を去るときにはわざわざ僕らの記念写真を撮り、手を振って見送ってくれた。

軽い罪とはいえ「犯罪者」を（④）として社会的に受け入れてしまうという、ツバルの人々の懐の深さに驚いた。国際政治をかじっている僕は、※勢力均衡やゲーム理論的なことばかり考えがちだけれど、こうやってつくられる信頼関係というか平和もあるのだなあ、と刑務所からバイクで3分ほどの滑走路に寝ころがりながら考える。

（永井陽右『僕らはソマリアギャングと夢を語る』より）

※驚愕：おどろくこと。

フランクさ：ざつぐばらんな様子。

タファーク：著者がツバルを訪れた際に、案内してくれた現地ガイド。

勢力均衡やゲーム理論的なこと：国と国とのバランスをとるための考え・方法・理論。

問一——部①「自分本位で生きていた」とありますが、筆者は「自分本位」をどのようにとらえていますか。それを説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を本文中から十四字で抜き出して答えなさい。

（十四字）に欠けている人

問二（②）にあてはまる言葉を本文中から二字で抜き出して答えなさい。

問三——部③「これ」とは具体的にどういうことですか。本文中の言葉を使って、十五字以内で答えなさい。

問四（④）にあてはまる言葉を本文中から三字で抜き出して答えなさい。

問五 次の中からこの文章の特徴をあらわしているものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 会話を多用し、話を聞く中で筆者の中で気づきが生まれる体験を描いている。

イ 比喩を多く用い、理解しづらい独特の感覚を我々にも分かるように説明している。

ウ 初めに自分の意見を述べ、その説の正しさを具体例を用いて説明している。

エ 文章を短く区切り、テンポをよくすることで、暗い話題を明るく見せている。

問六 筆者は藤嶺学園藤沢高等学校の卒業生で、現在は世界一の「ヒーロー」になるためにソマリアの紛争解決に向けて尽力しています。筆者は「ヒーロー」とは、誰かの役に立てる人のことで、どんな人にも「ヒーロー」になる可能性はあると言っています。あなたは将来どんな「ヒーロー」になりたいと考えますか。理由も含めて自由に書いて下さい。

氏 名

得点

⑤	
⑥	
⑦	
⑧	

www.elsevier.com/locate/jmb

③	①
主	主
述	述
④	②
主	主
述	述

二
一

が

の

をことわろうとしている話

[illegible]

四

問五

問六

問七

九

に欠けている人

[illegible]

問四

問五

岡六